

産学官連携交流会



日時 令和4年 10月20日(木) 13:00~17:35

会場 松本市Mウイング6階ホール

方式 会場開催 + オンライン同時配信

参加無料

入場時間：12:00
講演会開始：13:00

【パネルセッション：12時より Mウイング6階ホワイエにて】

会場開催のメリット

来場者との情報交換

パネル展示会場で交流

懇親会での交流

地域企業や大学等の研究機関、推進機関の皆様が、“産学官連携”の意義や価値を再確認していただき、それぞれが成長できる機会になることを願って開催いたします。本年度は特に“産・学”での共同取組に特徴のある事例を多く取り上げましたので、今後のイノベーション創出に活用下さい。なお、新型コロナ感染対策を十分に取ったうえで、会場にて開催します。ぜひ、実際に会場へご来場をいただき、発表内容を見聞きしながら産学官の交流の場になれば幸いです。なお、オンラインでも同時配信いたします。

第1部：基調講演

13:15~13:40

ミカタの変革と新価値創造 ~産学官が連携する意義の再確認~

信州大学 副学長(エンrollment・マネジメント担当) 林 靖人 氏

普段、車で通る道を歩いてみたら、新しい出会いがあったりやお店を見つけたり、地域の魅力を再発見した、新しい趣味や仕事に発展したなんて方もいると思います。実は、産学官連携の始まりや発展も同じです。普段とは異なる目線で見たり、普段とは異なる交流が何より重要です。

特に、人口減少社会においては、従来の増加志向とは異なる考え方が求められ、近年のコロナ禍やカーボンニュートラルなども従来とは違う課題解決が求められます。だからこそ、多分野・異分野と交流し、一緒に考え、新たな解決手法を創出することが重要です。

本講演では「ミカタ」と「連携」をキーワードに、新しい知識や視点が重なって未知を生み出す「新結合(イノベーション)」の場づくり、チャンスの捉え方をみなさんと共有します。本交流会で紹介される取り組み等を有効に活用する土台を整えます。

第2部：招待講演

13:40~14:05

飽食の時代に打ち勝つ商品造り・マッスルギョーザ誕生秘話

~大手メーカーとの戦い~(株)信栄食品 代表取締役 神倉 藤男 氏

私達の周りには数えきれないほどの食品が点在し生まれては消えを繰り返しています。その中でも冷凍食品は今の食習慣にマッチングし日進月歩の成長を続けています。中小食品メーカーが大手食品メーカーに打ち勝つ為の突破口はどこにあるのか。付加価値の構築、独自性、機能性、簡便性、栄養価に至るまで 中小企業ならではのスピード感と技術力を屈指しながら開発した「マッスルギョーザ」シリーズを、第一弾の誕生から長野大学との共同研究として発売した第五弾・第六弾の開発秘話までをお話させていただきます。

対象者

経営者、管理者、新技術、イノベーション創出に関心のある方

応募要項

※新型コロナ感染拡大で会場開催が困難な場合は、オンライン開催のみに変更いたします。また飲食を伴う親睦交流会開催が困難な場合は、親睦交流会は中止とし、Mウイング・ホワイエにて名刺交換会とします。(変更の場合は10月11日までに連絡をします。)

参加費 無料 定員 会場、オンライン共に100名程度

方式 会場開催(Mウイング) + オンライン同時配信

申込み方法 (講演会(会場 or オンライン)・親睦交流会)

- 申込締切り 10月7日(金)
- 申込方法 当機構の申込ページよりお願いします。または次頁FAXフォームでお申込み下さい。

本セミナーは一部雇用促進事業の補助金により開催します。年度末に雇用に関する調査にご協力をお願いする場合がございます。

問合せ先

公益財団法人 長野県産業振興機構
〒390-0852 長野県松本市島立1020長野県松本合同庁舎内
TEL 0263-40-1780 FAX 0263-47-3380
E-mail : nice-matsumoto@nice-o.or.jp
担当 田中、伊東、細野、牛山

主催(公財) 長野県産業振興機構
共催 松本地域産学官連絡会、信州大学学術研究・産学官連携推進機構
後援 長野県松本地域振興局、松本市、塩尻市、安曇野市、松本商工会議所
企画・運営 アルプス広域コーディネータ連絡会

第3部：シーズ講演と企業の取組紹介

14:05~17:35

【1】自己実現のための個別栄養最適食(AI食)の効果と実用化の取り組み

14:05

信州大学学術研究院農学系 准教授
共同発表 (株)ウェルナス代表

中村 浩蔵 氏
小山 正浩 氏

【2】スワリカブランド山岳河川水位計測システム

14:35

公立諏訪東京理科大学 特任教授
共同発表 36ICT(株)代表取締役

小林 誠司 氏
渡辺 毅 氏

【3】電磁ブレーキの寿命推定システム開発の紹介

15:05

長野高専 工学部 機械ロボティクス系教授
共同発表 林エンジニアリング(株)代表取締役

田中 秀登 氏
林 政広 氏

休憩&パネルセッション

15:35~15:50

<企業の取組紹介>

15:50~16:45

- ①株式会社AB.do 情報通信システム開発事業部リーダー 竹前和幸氏
- ②株式会社ヤマサ 代表取締役社長 北爪寛孝氏
- ③日本ミクロン株式会社 技術部課長 野田達郎氏
- ④高島産業株式会社 開発本部長 小口陽平氏

【4】地域での共創と循環を目指す小規模水力発電

16:45

信州大学工学部 機械システム工学部准教授 飯尾 昭一郎 氏

【5】産学官連携による6次産業化推進事業の事例報告

17:10

松本大学 人間健康学部 健康栄養学科 准教授 矢内 和博 氏

親睦交流会

17:45~19:00

会場 松本商工会議所 601会議室

会費 3000円(会場にて当日徴収)

新型コロナ感染症対策を十分に取り、多少の飲食を伴う交流会を実施します。
☞名刺交換、質疑応答、情報交換等で親睦を深めましょう。

申込みQRコード



申込みURL (セミナー案内ページからでも申し込みます)
<https://www.nice-o.or.jp/formpage/formpage-16944/>
セミナー案内URL
<https://www.nice-o.or.jp/info/産学官連携交流会2020/>

シース発表の講演要旨

【1】自己実現のための個別栄養最適化 (AI食) の効果と実用化の取り組み

信州大学学術研究院農学系 准教授 中村浩蔵 氏
共同発表 (株)ウェルナス代表 小山正浩 氏

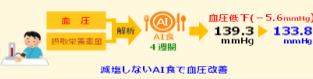
個人毎に食と身体の動的データを多変量解析し、身体データを改善または改善する栄養素を特定・調節することで、健康や自己実現目標を達成するために栄養素を最適化した「個別栄養最適化 (AI食)」を発明し、AI食メニューを提案するスマホアプリ「Newtrish」を開発した。これまでにAI食摂取によって、血圧、体重、短期記憶、骨格筋率、水泳記録、持久力、集中力の改善効果が認められている。本講演では、AI食の概念と効果、ベンチャー企業・(株)ウェルナスでのAI食サービス実用化の取り組みについて紹介する。

AI食の摂取による身体データ改善効果

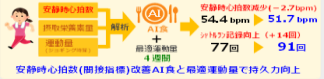
AI食摂取した96.3% (27例中26例) で効果あり

血圧 1/2/13、体重 7/7、体幹骨格筋率 1/1、水泳記録 1/1、運動持久力 1/1、心拍数記録 1/1、脳機能 (短期記憶) 2/2、集中力 1/1

▶ 血圧改善



▶ 運動持久力向上



▶ 体重減少



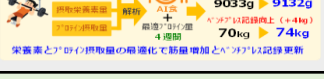
▶ 水泳記録向上



▶ 脳機能 (短期記憶) 向上



▶ ベンチプレス記録更新



【2】スワリカブランド山岳河川水位計測システム

公立諏訪東京理科大学 特任教授 小林誠司 氏
共同発表 36ICT(株)代表取締役 渡辺毅 氏

登山中は短時間でスマホが電池切れになることがあります。スマホの無線通信は基地局が遠いと電波出力を増大させるのが原因です。私たちは、山の中からも低消費電力でデータを送れる通信 (ELTRES) を使った河川水位計を地元企業と開発しました。

この水位計は現在、諏訪地域の60か所で作働しています。
<https://river.suwarika.com>

昨年9月にはこの水位計を設置した場所で土石流が発生しました。講演では、このとき山中で観測された土石流による水位変化と、この水位計の将来展開をお話します。

【3】電磁ブレーキの寿命推定システム開発の紹介

長野高専 工学科 機械ロボティクス系教授 田中秀登 氏
共同発表 林エンジニアリング(株)代表取締役 林政広 氏

現在は不確実な時代と言われています。米中貿易摩擦から始まり、新型コロナの感染拡大、火災や台風、寒波、大雨、加えて戦争などの自然災害や人的災害により、半導体不足、原油高、原材料高など様々な事態が連鎖的に発生します。このように想定外のことが目まぐるしく起こり、先行きが見通しにくく、生活やビジネスの環境が大きく変化してしまいます。このような予測不能な時代を乗り切るため、産学の共同研究も一段と効率的に推進することが必要です。その一例として、林エンジニアリングと長野高専の田中研究室の共同研究の1つを紹介します。

【4】地域での共創と循環を目指す小規模水力発電

信州大学工学部 機械システム工学科准教授 飯尾昭一郎 氏

地球温暖化対策として再エネの導入拡大が固定価格買取制度を軸に進められています。同制度の導入は売電ビジネスの好機となり、機器コストの上昇や長納期化が課題となっています。

長きにわたり地域が守ってきた「公共財」である水を利用する小規模水力発電が営利最優先の事業で進められる現状ははたして大丈夫なのでしょうか？

地域の財産である水を「地域のため」に利活用する視点が持続可能性の観点からはもっとも大切だと考えから、地元の企業や自治体との連携により水車の設計から製作、製品化、パッケージ型水力発電所を実現した取り組みを紹介します。



【5】産学官連携による6次産業化推進事業の事例報告

～長野県産農産物の有効活用法の開発から見た食料問題とその解決策について～

松本大学 人間健康学部 健康栄養学科 准教授 矢内和博 氏

食料自給率の低迷が取り上げられることが多い。令和3年のカロリーベース食料自給率は38%となっている。すなわち、日本は必要とする食料の半分以上を輸入に頼っている。今後の世界の人口の動向については、西暦2038年には90億人を突破、さらに2056年に世界の人口は100億人に達すると言われる。このような状況の中で、世界中で食料不足に陥ることが予想される。1994年、今村奈良臣氏(東京大学名誉教授)が「6次産業化」という概念を提唱された。国は6次産業化を助成し、個人の収益としての向上は見られたが、今後は日本の食料問題の解決の糸口として6次産業化を推進する必要があると考える。農業から食品加工の過程においてのロスが多いものの、有効活用についてはより多くのコストがかかるため、経済を伴う循環を生むためには、まだまだ多くの課題をクリアなくてはならないと考える。本報告は、道半ばではあるが今までの事例と今後の取り組みについて報告する。

企業発表

①(株)AB.do	情報通信システム開発事業部リーダー 竹前和幸氏	3Dモデルデータおよび2D地図データの歪み補正システム
②(株)ヤマサ	代表取締役社長 北爪寛孝氏	原石判定AIシステム、骨材製造最適化システム
③日本ミクロン(株)	技術部課長 野田達郎氏	生産設備のIoT化に使える電池のいらぬ自己発電型・無線通信センサーの開発
④高島産業(株)	開発本部長 小口陽平氏	新規生検術用機器ボーリングバイオプシーニードルの開発

産学官連携交流会in松本 2022

(公財)長野県産業振興機構 松本センター 宛

参加申込書

FAX 0263-47-3380 TEL 0263-40-1780

E-mail nice-matsumoto@nice-o.or.jp

企業名		TEL	
所在地		FAX	
役職名	氏名	講習会参加	親睦交流会参加
		会場・オンライン	有・無
		会場・オンライン	有・無
		会場・オンライン	有・無
		E-Mail(必須)	

※本申込書にて記入いただいた個人情報、募集イベントの登録辞退して利用する功、(公財)長野県産業振興機構松本センターからの各種イベントのご案内の送付に用いるもの、他の用途へは使用しません。また、受講票は発行いたしませんので、お申し込み後事務局から特別のご連絡がない限り当日会場へお越しください。